

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(令和元年度)

2. 分野別状況(2)地域活性化総合特区 ②ライフ分野 (10/10)

	総合評価 (ⅠとⅡとⅢを1:1:2の割合で計算)	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
国際医療交流の拠点づくり「りんくうタウン・泉佐野市域」地域活性化総合特区(大阪府、泉佐野市)	3.0	3.3 進捗度 ・国際医療交流の推進 118% ・訪日外国人へのホスピタリティや地域魅力の向上による訪日促進 79%	2.6 規制の特例等 ・地域限定特例通訳案内士育成等事業 等 地域独自の取組 ・国際医療交流の拠点づくり促進補助金 ・宿泊施設設置奨励金 等	3.0	<ul style="list-style-type: none"> ・関空の玄関口という国際医療拠点として立地条件はよいが、目標達成には程遠い。スタートからかなりの年月が経過しているが、構想の抜本的な見直しが必要だと思われる。 ・高度がん医療拠点の開院後4年経て、外国人患者数が進捗度39%であるのは、医療拠点が認知されていないか、認知されていても評価されていないと推測され、抜本的な改善策が求められていると考えられる。 ・積極的な広報等により目標値には達しないものの外国人がん患者診療数が増加していることは評価できる。 ・コロナ禍のなかでも、高度がん医療を求める外国人患者の一定の受け入れが進んでいる点は評価できるものの、これまでの評価のなかで指摘されている改善が遂行されている状況にはない。 ・医療通訳の養成が進んでいるが、活用するには外国人患者数増加が不可欠である。外国人患者数増への取組が求められる。 ・「国際交流」を目玉とする特区計画であるため、コロナウイルス感染拡大の影響が事業全体に与えるインパクトは甚大である。コロナ収束後、万博開催などを見据え、ホテル誘致、医療通訳、特区ガイド養成など、将来に向けた着実な投資、地固めを進めていただきたい。